

技術情報

滋賀県農業技術振興センター農業革新支援部

発信日：令和5年6月1日	部門名：気象災害	発信番号：001
標題：早期梅雨入り、大雨に備えての対策について		記述者：各担当

近畿地方の梅雨入りが例年と比べ1週間ほど早く、5月29日（月）と発表され、台風2号の影響もあり、断続的な大雨が予想されています。大雨による農作物等の被害を最小限に抑えるため、万全の対策を講じてください。併せて、最新の気象予報の把握に努めてください。

対策の詳細については、最寄りの農業普及指導センター（農業農村振興事務所農産普及課）にお問い合わせください。

なお、ほ場や施設の点検は、事故防止の観点から、気象情報を十分に確認し、雨が治まってから行うようにしてください。

【麦類】

- ①排水溝を点検し、速やかに排水するよう溝さらえ等を徹底すること。特に倒伏しているほ場では滞水しないよう地表排水を促す。
- ②倒伏により品質悪化が懸念されるほ場は、健全なほ場と分けて収穫・乾燥調製を行い、品質確保に努める。また、乾燥調製施設の荷受け時においても穂発芽や赤かび病のチェックを入念に行い、被害粒が確認された場合には別に乾燥調製を行い、健全粒との仕分けを徹底する。
- ③発熱や発酵による被害粒の発生を防止するため、穀粒水分の高い麦は収穫後、速やかに乾燥工程に移す。

【大豆】

- ①大豆栽培予定地は、麦収穫後、速やかに額縁排水溝等を補修または再施工し、地表排水に努める。

【水稻】

- ①冠水した場合、葉先を水面に出すよう速やかな排水に努める。
- ②天候の回復を待って、浅水管理を行い、分けつを促進する。

【野菜】

I 施設野菜（雨よけを含む）

- ①天候が回復した後にしおれが甚だしい場合は、遮光やべたがけ等を行い植物体温の低下と蒸散の抑制を図る。
- ②病気が発生しやすいので、天候の良い日に予防散布を行う。病気が発生している場合は、治療剤を撒布する。

II 露地野菜

- ①排水溝をさらえる等排水に努め、排水溝を尻水戸につなげるなど水落ち部分は必ず作る。

- ②肥料の流亡が考えられる場合は、速効性の窒素やカリ肥料を追肥する。また、草勢の回復を図る場合は、薄い液肥の施用や葉面散布が効果的である。
- ③土壌表面が固まった場合は、天候の回復を待つて畝全面を軽く中耕して通気性をよくする。
- ④病害の発生や被害の拡大を防ぐため、天候の回復を待つて防除を徹底する。
- ⑤定植作業が遅れる場合、育苗中後期の苗であれば、遮光ネットを外し苗の徒長を防ぐ。ただし、強光時に遮光を外すと、逆効果になることもあるので注意する。
- ⑥タマネギの収穫作業は、球への泥の付着や腐敗防止のため、土壌が十分乾いた状態で行うとともに、拾い上げ後は速やかに乾燥機等を利用し乾燥する。

【果樹】

- ①降水量が多くほ場に長期間滞水する場合は、根の活力低下、枯死を防ぐため側溝のゴミ、泥の除去、除草を行うなどして水の流れを良くし、浅い溝を掘って表面水を園外に排水する。
- ②病害が発生しやすくなるので、発生があれば、天候の回復を待つて農薬安全使用基準に従って病害防除を徹底する。

【花き】

- ①ほ場の排水施工状況を点検し、滞水が予想される箇所は対策を講じておく。降雨後に帯水がある場合は排水溝をさらえるなどして速やかに排水を行う。
- ②草丈が伸びた小ギクでは、突風により倒伏しないよう、畝の両端の親支柱や中間支柱をしっかりと立て直す。必要に応じて中間にクイを入れて補強する。
- ③病害が発生しやすくなるので、長雨の前に予防的防除を実施する。病害の発生があれば、天候の回復を待つて治療的防除を徹底する。防除にあたっては農薬安全使用基準に従う。

【茶】

- ①二番茶芽に病害が発生しやすくなるので、二番茶萌芽期～開葉期に予防防除を行う。病害の発生が認められた茶園では摘採前日数に注意して治療剤を散布する。特に、もち病の常発園では注意する。
- ②ほ場に明渠を設置している場合は、溝をさらえるなど確実に排水が行われるよう点検しておく。
- ③製茶工場にカビ等が発生しやすいので、こまめに掃除する。二番茶前には掃除を徹底する。

【畜産】

- ①畜舎に雨が吹き込んだ場合は、風通しを良くし、乾燥に努める。特に湿った敷き料は速やかに交換する。
- ②飼料作物栽培ほ場は、滞水しないよう速やかに排水を行う。滞水により発芽不良を起こした場合は、排水後に早めに播き直しを行う。
- ③湿気で飼料にカビが発生しやすくなるので、給与時によく確認し、変敗しているものは廃棄する。
- ④湿気で畜舎の床が滑りやすくなるので、家畜の移動や作業時にケガをしないように注意する。